

富洲原中だより

富洲原中学校通信 No.21



令和7年9月29日

相手の立場に立って考え、自分のこととして行動する

みなさんは「偏見（へんけん）」という言葉聞いたことがありますか？

偏見：よく知らないのに「勝手に決めつけてしまう心」

例えば「見た目がこうだから、きっと性格もこうだろう」

「〇〇出身の人はみんな〇〇だ」

差別：その決めつけをもとに「人を不公平にあつかうこと」

例えば「外国から来た人だから仲間に入れない」

「男だから、女だからといってやりたいことをさせない」

つまり、偏見が心の中にある「思い込み」だとすれば、差別はその思い込みを行動にあらわしたものです。

なぜ、偏見をもってしまうのか？

脳は「すばやく判断する」ようにできています。たとえば、見たことのない食べ物を「危ないかも」と警戒するのは、生き残るための本能的な反応です。これが、人に対しても「この人はこういう人だろう」と思い込む原因にもなります。

また、人は「自分たち」と「それ以外」とを区別する傾向があります。仲間を守ろうとする気持ちは自然ですが、それが強すぎると「自分と違う人を排除する」ことにつながってしまいます。

さらに、経験や情報の影響も考えられます。家族や友人、社会の中で見聞きしたことが無意識に偏見を形づくっています。

このように考えてみると、「偏見をもつことは人間の自然な心のはたらきでもある」ということになります。

では、偏見はなくせないのか？

偏見は自然な心のはたらきによるものだから、完全になくすことは難しいのです。

一方で、人間が「よりよく生きたい」と願うのも自然な心のはたらきです。心には偏見を生み出す部分と、偏見を許したくない部分の両方があるのです。

そして、偏見を減らしていくためには、一人ひとりの努力が必要です。

- ・自分の中にある「思い込み」に気づく
- ・相手をよく知ろうとする
- ・いろいろな人と関わって経験を増やす

こうした努力が、偏見を減らすことにつながるはずですが、学校のなかまと活動するとき、このことを意識しておくとういと思います。

大切な二つの力

共感性や当事者性を育てることも、偏見を乗り越える力になります。

共感性：相手の立場に立って考える力

当事者性：自分のこととしてとらえ、行動しようとする力

みなさんが安心して過ごせる学校をつくるためには、だれか一人だけの力ではなく、クラスのみんな、学校全体の協力が必要です。偏見をもつことは自然なことですが、それに気づき、相手を理解しようと努力することが大切です。日常のちょっとした場面で「自分だったらどう感じるかな」と考えてみたり、「関係ない」と思わずに一歩ふみ出してみたりすることが、なかまづくりの第一歩です。

みんなの力で、互いを大切にし合える学校をつくっていきたいと思います。

この富洲原中だよりは、人権について考えるものです。

ご意見がありましたら、校長までお寄せください。

この富洲原中だよりの翻訳版は学校ホームページに掲載しています。QRコードからご覧ください。

The translated version of this Tomisuhara Junior High School newsletter is available on the school website. Please access it via the QR code.

La versión traducida de este boletín de la Escuela Secundaria Tomisuhara está disponible en el sitio web de la escuela. Por favor, acceda a ella a través del código QR.

यो टोमिसुहारा माध्यमिक विद्यालयको समाचारपत्रको अनुवादित संस्करण विद्यालयको वेबसाइटमा उपलब्ध छ। कृपया QR कोडमार्फत हेर्नुहोस्।

Phiên bản dịch của bản tin Trường Trung học Cơ sở Tomisuhara được đăng trên trang web của trường. Vui lòng truy cập thông qua mã QR.

富洲原中学校ホームページ <http://www.yokkaichi.ed.jp/~tomisu/cms2/htdocs/>
「学年・学校からのお知らせ」を選んでください。

